



国立大学法人

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

上肢リハビリロボット

背景

急速に進んでいる少子高齢化の日本において、高齢者増加に伴う介護のニーズが増加している。要介護度別の主な原因の第1位である**脳卒中**は発病すると死の危険があり、一命をとりとめても身体の麻痺や言語障害などの後遺症が残る人が多い。リハビリテーションによる療法士の負担は増大し、これを解決する手段として、現在リハビリ訓練支援ロボットへの期待が高まっている。

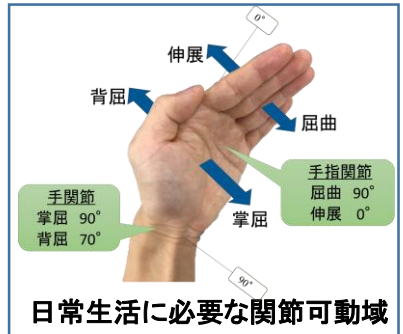


ロボット構成

関係先:九州労災病院門司メディカルセンター、産業医科大学他
試験導入の病院で臨時効果が認められた。

ロボットの特長

- (1)コンパクト
持ち運びや移動が容易で、病院や家庭での狭小スペースでもリハビリ可能。
- (2)鏡像運動
左右同時の両手関節掌背屈運動が可能。
- (3)ユーザーフレンドリー
タッチパネルで操作が容易。訓練意欲を高める画面構成。



上肢関節可動域訓練装置

上肢関節可動域訓練装置は右上肢の手指関節および手関節の痙縮患部に振動刺激を与えつつ、同時に関節可動域訓練を行う装置。臨床試験実施中。さらに高いリハビリ効果を得られるように研究開発中。

